

IDE Updates

研究所の取り組みをご紹介します

二〇一五年度研究会の紹介——アフリカを知るための三つの視点

二〇一五年度の研究会が発足しました。今年度は、四月末時点で六七の研究会が発足しています。今回は、アフリカにフォーカスした三つの新たな研究会をご紹介します。

アフリカは、これまで中国の資源需要を背景として投資を呼び込み、資源輸出入による経済成長を謳歌してきました。しかし、ここに至り、その経済成長に減速傾向がみられます。もし、アフリカ経済の低成長傾向がより顕著になれば、日本を含む多くの国で対アフリカ政策、資源政策が見直されることになるでしょう。そこで、「コンテンポラリーアフリカ」研究会では、現在のアフリカを取り巻く経済環境を分析し、今後のアフリカ経済の展望を予測するとともに、日本が採るべき対策を提言します。

アフリカの土地問題に焦点を当てたのが「冷戦後アフリカの土地政策」研究会です。アフリカ諸国では、特に冷戦終結後に土地政策の見直しが行われてきましたが、一方で土地をめぐる紛争が激化するケースもみられます。アフリカの持続的な成長のためには社会的安定が不可欠であり、そのためには土地紛争をめぐる冷静な現状分析とどのような土地政策が社会的安定に寄与するかといった問いに答えていく必要があるのです。

貧困削減の観点からは、いかに貧困層や若年層の雇用を創出するかが重要になります。「アフリカにおける若者のスキル開発」研究会では、近年政策課題として注目されている「職業訓練教育(TVET)」に焦点を当て、アフリカに

おけるTVETの成果を分析するとともに、若者のスキル開発にかかる課題を検討します。

アフリカの政治・経済・社会分析については、ウェブ雑誌の『アフリカレポート』を発行しています。『アフリカレポート』は、以下のURLよりダウンロードできます。

(<http://www.ide.go.jp/Japanese/Publish/Periodicals/Africa/>)

(文責 研究マネジメント職 片岡真輝)

ジャック・ティス教授による特別セミナーが所内で開催されました。

去る四月二三日(月)、ベルギーのルーヴァン・カトリック大学(Université catholique de Louvain)のオペレーションズリサーチ・計量経済学センターよりジャック・ティス(Jacques-François Thisse)教授が来日され、所内でセミナーを開催しました。

ティス教授は経済地理学、産業組織論等を専門とされ、今回は「単独購入者(Monopsonistic)と独占的競争は賃金格差にどのような影響を与えるか? (How Monopsonistic and Monopolistic Competition Affects Wage Disparities?)」をテーマに講演が行われました。高スキルの労働者と低スキルの労働者の格差の拡大や、男女の賃金格差は製品市場が競争的になれば縮小する



ジャック・ティス教授によるセミナー (2015年4月13日)

ことなどの報告がありました。その後、参加者からは賃金格差と都市の規模の関係性など質問があり、活発な議論が行われました。

(文責 研究マネジメント職 佐々木晶子)